

現行の中学校学校スー校ランチの充実に向けて〔アンケート結果のまとめと課題〕【概要】

1 現行のスクールランチについて

- ・ 現行のスクールランチは、生徒・児童、保護者のいずれにおいても十分に認知されていない。
⇒周知方法の改善
- ・ 利用が少ない理由は、認知されていないこと、家庭弁当持参制度が定着していること、現行のスクールランチの注文・支払い制度などが面倒であることなどがあげられています。
⇒周知方法の改善 ⇒利用しやすい制度
- ・ 現行のスクールランチが中学生に受け入れられていない。
⇒献立の充実

2 中学校昼食の実態と予定

- ・ 家庭弁当持参制度は定着している。
⇒スクールランチは補完的な制度に留める
- ・ 家庭弁当を介した作り手と生徒の間にコミュニケーションが発生している。
⇒スクールランチは補完的な制度に留める
- ・ 家庭弁当以外となる場合の主な対応は「市販のパンやおにぎり」を購入することであり、成長期の中学生に適した昼食のあり方とは言いづらい。
⇒利用しやすい制度 ⇒献立の充実
- ・ 給食よりも家庭弁当のほうが残す生徒が少ない。
⇒スクールランチは補完的な制度に留める
- ・ 家庭弁当を持参しにくい生徒に対しては教職員により「生徒にパンなどを持ってくるように指導している」、「教職員がパンなどを買いに行っている」などの対応が行われている。
⇒事務手続きの軽減

スクールランチは補完的な制度に留める

周知方法の改善

利用しやすい制度

利用しやすい価格

献立の充実

事務手続きの軽減

3 中学校昼食のあり方についての希望

- ・ 児童・生徒は、「お弁当のほうがおいしいから」「メニューや量を調整できるから」「好きなものが食べられるから」を理由に家庭弁当を希望している。
⇒献立の充実
- ・ 保護者は、「栄養バランス」や「家庭弁当作りの負担軽減」を理由に小学校のような給食（全員喫食方式の完全給食）を希望している。
⇒利用しやすい制度 ⇒献立の充実

4 スクールランチの充実にについて

- ・ 保護者は現行のスクールランチの改善の方向性として、安価であることと注文や支払いなどが簡単に行えることなどを求めている。
⇒利用しやすい価格 ⇒利用しやすい制度
- ・ 教職員の間では支払いのトラブルや業務が増えるという意見があります。
⇒事務手続きの軽減
- ・ 改善された場合8割以上の保護者が利用意向を示しており、潜在需要が見込まれます。

周知方法の改善

児童・生徒、保護者がスクールランチを認知するように周知方法を改善する。

事業普及リーフレットや献立表の配布・試食会

【スクールランチを知ってもらうための取組】

- ・導入しやすい取組として毎月の献立表の配布、中学校入学説明会での保護者への説明

【スクールランチを注文してもらうための取組】

- ・将来的には保護者、生徒向けの試食会の実施

利用しやすい制度

充実させるため、必要な時に利用できるように利用条件を緩和したり、注文や支払い方法を工夫して利用しやすい制度とする。

利用条件の緩和と注文・支払い方法の改善

- ・家庭弁当の持参が事情により難しい場合には積極的にスクールランチの利用を促進
- ・利用をしやすいするためには、家庭弁当とスクールランチの選択性の導入を検討
- ・注文や支払い方法の改善の検討

現行の中学校スクールランチの充実に向けて

《改善・検討点》

利用しやすい価格

利用を増やすため、利用しやすい価格でスクールランチを提供する。

利用率の確保と利用しやすい価格

- ・保護者の希望が多い300円台での斡旋

献立の充実

充実させるため、おいしいこと、選択できるメニュー、量が調整できることなど、献立を充実させる。

栄養バランスの整ったメニューや量の調整

【導入しやすい取組】

- ・魅力的な献立の提供のためのイベントの実施

【将来的な取組】

- ・ご飯の量の調整や選択できるメニューの導入

事務手続きの軽減

支払いのトラブルや教職員への負担が増加しないような制度とする。

負担が増加しない仕組みづくり

- ・注文や支払い、配膳、下膳の仕組みを作る

スクールランチは補完的な制度に留める

